

| 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
|--|---|----------------------------|------|
| 16102001 | チベット文化圏における言語基層の解明—チベット・ビルマ系未記述言語の調査とシャンシュン語の解読 | 長野 泰彦（国立民族学博物館・民族文化研究部・教授） | A |
| <p>本研究の目標は、主として次の点である：① チベット・ビルマ系未記述言語の調査、②チベット語圏の言語基層に関する歴史学的方法論の検討、③シャンシュン語の未解読文献の解読と文法の作成。これらの目標に照らして、研究成果は学術的に高いものであり、チベット・ビルマ語の文献研究、基礎的データベースの作成、歴史言語学における独創的な方法の開拓とその検討において、十分な貢献をしていると考えられる。</p> <p>特に、本研究により作成された基礎語彙集、フィールドワークによる広範な地域の言語動態調査、その研究成果による多くの優れた論文の刊行は、当該分野の研究に重要かつ多大な影響を与えるものと考えられる。また、チベット・ビルマ系言語に「基層」概念を導入し、その検証作業としての国際シンポジウムを組織し、歴史言語学の方法一般についての新たな提言を行っていることも高く評価できる。</p> <p>今後、海外の招聘研究者、研究協力者とのネットワークを活用した言語動態調査により、未記述言語の文法作成などの更なる進展が期待される。</p> | | | |